




会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 エアゾール	最新改定日 2016年5月13日
--------------------	--------------------	---------------------


			
		安全データシート	

作成日：2015年11月12日

1. 化学品及び会社情報

製品名/化学品の名称	WD-40 エアゾール
会社名	WD-40 カンパニー
住所	1061 Cudahy Place (92110) P.O. Box 80607 San Diego, California, USA 92138 -0607
電話番号	緊急専用：1-888-324-7596 (PROSAR) 情報案内：1-888-324-7596 漏えい時：1-800-424-9300 (ケミトレック) 国際電話：1-703-527-3887
推奨用途	潤滑剤、浸透剤、防湿剤、リムーバー、表面腐食防止剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類		
物理化学的危険性	可燃性エアゾール	区分1
健康に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	区分1
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分3(神経系)
GHSラベル要素		
絵表示		
注意喚起語	危険	
危険有害性情報	H222 極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール H229 高压容器：熱すると破裂のおそれ H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ H336 眠気またはめまいのおそれ	
注意書き		
【安全対策】	P210 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。 P211 裸火または他の着火源に噴霧しないこと。 P251 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。 P261 ミスト、蒸気の吸入を避けること。 P271 屋外又は換気のよい場所でのみ使用すること。	
【応急措置】	P301+P310 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。 P331 無理に吐かせないこと。 P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢	

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 エアゾール	最新改定日 2016年5月13日
--------------------	--------------------	---------------------

	で休息させること。 P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。
【保管】	P403+P233 換気のよい場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 P405 施錠して保管すること。 P410+P412 日光から遮断し 50℃以上の温度にばく露しないこと。
【廃棄】	P501 内容物、容器を地方自治体及び国の法規に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
-------------	-----

化学名/一般名	CAS番号	含有量 (wt.%)	GHS 分類
脂肪族炭化水素	64742-47-8	50-70	引火性液体:区分3 吸引性呼吸器有害性:区分1 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露):区分3(神経系)
石油系オイル	64742-56-9 64742-65-0 64742-53-6 64742-54-7 64742-71-8	<25	区分外
非有害性成分	混合物	<10	区分外
二酸化炭素	124-38-9	2-3	単純窒息性、加圧ガス、圧縮ガス

4. 応急措置

飲み込んだ場合	吸引性呼吸器有害性があるため吐かせてはならない。直ちに医師、救急センターまたは WD-40 救急ホットライン 1-888-324-7596 に連絡すること。
眼に入った場合	水で十分に洗眼する。コンタクトレンズを付けている場合は、洗浄開始から5分後に外し、さらに続けて数分間洗う。刺激が続く場合は医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	水と石鹼で洗浄する。もし刺激がひどくなったり、継続する場合は、医師の手当てを受ける。
吸入した場合	刺激を感じたら新鮮な空気のところに移動させる。もし刺激や他の症状がひどくなったり、継続する場合は、医師の手当てを受ける。
最も必要な徴候症状 (急性、遅発性)	飲み込むと有害または致命的である。飲み込んだ場合は、吸引し、肺の損傷を引き起こす可能性がある。長時間の皮膚接触は皮膚の乾燥を引き起こす可能性がある。ミストまたは蒸気を吸入すると、鼻や気道の炎症や頭痛、めまいや吐き気などの中枢神経系への影響を引き起こす可能性がある。
医師に対する特別な 注意事項	飲み込んだ場合は、緊急の医療措置が必要である。

5. 火災時の措置

消火剤	噴霧水、噴霧水、粉末消火薬剤、炭酸ガス、泡消火剤を使用して消火する。
使ってはならない消火剤	棒状水または氾濫するような多量の水を使用してはならない。燃焼している製品が表面に浮かび、火災が拡大する。

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 エアゾール	最新改定日 2016年5月13日
--------------------	--------------------	---------------------

特有の消火方法	消火を行う者は常時、圧力自給式呼吸器と完全防護服を使用する。火災に曝らされているタンクを水で冷却する。破裂している容器から保護するために遮蔽を使用する。
特有の危険有害性	内容物は加圧状態である。極めて可燃性のエアゾールである。発火源や裸火から隔離すること。容器を極めて高い熱や炎にさらすと激的な力により容器が破裂する。蒸気は突発的な火事の原因になる。蒸気は空気より重く、表面を移動して離れた着火源まで到達し、フラッシュバックを起こすことがある。蒸気と空気の混合物は密閉空間で爆発を起こす危険がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	すべての着火源を取り除き、付近を換気する。適切な保護具を着用する(8項を参照)。
環境に対する注意事項	要求に応じて当局に漏出を報告する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏れている容器は、圧力が解放されるまで、プラスチックの袋か、解放されたバケツの中に置く必要がある。液体を封じ込めて集め不活性吸収剤に吸収させ廃棄用容器に入れる。漏出区域を徹底的に浄化する。要求に応じて当局に漏出を報告する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
安全取扱い注意事項	<p>眼との接触を避ける。長時間の皮ふとの接触を避ける。蒸気やエアゾールの吸入を避ける。適切な換気が行われている場所だけで使用する。熱、火花、熱面および裸火から遠ざける。</p> <p>噴霧する前または電源の近く缶を持ち込む前に、電動工具、電動機や家電製品のプラグを抜くこと。電気は缶の穴を燃焼させ、内容物の炎上を引き起こす可能性があります。重大な火傷を避けるために、缶を、バッテリーの端子、モーターや家電製品の電氣的接続部や他の電源に触れないようにすること。取扱い後は、石鹼と水で十分に洗うこと。子供の手の届かないようにする。空になっても容器に穴を開けたり、つぶしたり、焼却したりしないこと。</p> <p>内容物または容器を廃棄する場合は、13項に示す方法で廃棄すること。</p>
安全な保管条件	涼しく、よく換気された場所で、混触危険物質と離して保管すること。直射日光の元や、48℃以上で保管しないこと。(危険物4類第2石油類 危険等級Ⅲ)
混触危険物質	酸化物質から隔離して保管すること。法規制条件を順守して保管すること。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度	成分	ばく露限界値
	脂肪族炭化水素	1200 mg/m ³ TWA (製造者推奨)
	石油系オイル	5 mg/m ³ TWA (inhalable) ACGIH TLV (鉱物油として) 5 mg/m ³ TWA OSHA PEL (オイルミスト、鉱物として)
	非有害性成分	未確定
	二酸化炭素	5000 ppm TWA, 30,000 ppm STEL ACGIH TLV

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 エアゾール	最新改定日 2016年5月13日
--------------------	--------------------	---------------------

	5000 ppm TWA OSHA PEL
--	-----------------------

一般消費者用としての管理	
技術的管理	よく換気された場所で使用すること。
保護具 眼	眼との接触を避けること。常に顔からスプレイを離しておくこと。
皮膚	皮ふとの長時間の接触を避けること。皮膚との接触の可能性のある操作では耐化学薬品手袋が推奨される。
呼吸器	換気のよい場所で通常使用の場合、呼吸器保護具は必要ない。
多量に扱う場合または職場での使用の場合の管理	
技術的管理	暴露水準を作業環境許容濃度以下に維持するために、適切な全体排気装置及び局所排気装置を使用すること。
保護具 眼 皮膚 呼吸器	眼との接触の可能性のあるところでは安全ゴーグルが推奨される。 耐化学品手袋を着用すること。 換気が適切であれば不要である。もし稼業環境許容濃度を超える場合は、法規や公的基準(例えば JIS T8150 など)に準拠した呼吸器を付けること。呼吸保護具の選択と使用は、汚染物質の種類、形状および濃度に基づいて行わなければならない。 労働安全衛生法および JIS T8150 に準拠すること。
衛生対策	取扱後は水と石鹼で十分に洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色	淡琥珀色の液体
臭い	マイルドな石油臭
臭いの閾値	確立されていない
pH	確立されていない
融点	確立されていない
沸点	160-198° C (脂肪族系炭化水素)
引火点	43° C (脂肪族炭化水素)
蒸発速度	確立されていない
燃焼性(固体、気体)	可燃性エアゾール
VOC	533 grams/liter (65%)
燃焼限界	LEL: 0.7% UEL: 5.6% (脂肪族系炭化水素)
蒸気圧	確立されていない
蒸気密度	1より大(空気=1)
比重	確立されていない
溶解性	水に不溶
分配係数;n-オクタン/水	確立されていない
自然発火温度	確立されていない
分解温度	確立されていない
粘度	確立されていない
流動点	確立されていない

10. 安定性及び反応性

反応性	非反応性
-----	------

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 エアゾール	最新改定日 2016年5月13日
--------------------	--------------------	---------------------

化学的安定性	正常な保管と取扱のもとでは安定
危険有害反応可能性	危険な重合は起こらない
避けるべき条件	熱、火花、炎および他の発火源。容器に穴を開けたり、焼却しないこと。 内容物または容器を廃棄する場合は、13項に示す方法で廃棄すること。
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、煙霧、未燃焼炭化水素

11. 有害性情報

過度暴露による症状	
吸入	ミストまたは喉と肺を刺激する。高濃度暴露は、鼻や呼吸器への刺激や、頭痛、めまいや吐き気などの中枢神経系への影響を引き起こす可能性がある。意図的な乱用は有害または致命的である。
皮膚への接触	長時間および/または繰り返し接触は軽度の炎症や皮膚炎で脱脂を生ずる可能性がある。
眼への接触	接触により眼に刺激を与える。赤眼、刺すような痛み、腫れや引き裂き感の原因となることがある。
飲み込み	この製品は低経口毒性である。もし飲み込んだ場合、口、咽喉や食道への刺激を引き起こす可能性がある。嚥下は胃腸刺激、吐き気、嘔吐、下痢、めまい、眠気や他の中枢神経系への影響を引き起こす可能性がある。この製品は、吸引呼吸器有害性である。飲み込んだ場合、肺に入る可能性があり、化学性肺炎、重度の肺の損傷や死亡の原因になる可能性がある。
慢性症状	ないと予想される。
暴露により悪化する健康状態	既存の眼、皮膚および呼吸器の症状が暴露によって悪化することがある。
発がん性物質の疑い	なし
製品成分の評価により、この製品の経口毒性は 5,000 mg/kg より大きく、経皮毒性は 2,000 mg/kg より大きいと推定される。この製品は確率された基準により毒性には分類されない。吸引呼吸器有害性である。	

12. 環境影響情報

環境有害性	現在のところ水生環境毒性に関するデータはない。しかしながら、この製品の成分からは水生環境に有害とは予想されない。
残留性・分解性	製品成分は容易に生分解すると予想される。
生体蓄積性	製品成分の評価からは生体蓄積性はないと予想される。
土壌中の移動性	データなし。
その他の有害性	知られていない。

13. 廃棄上の注意

<p>国際、国、地方自治体の規制に従って廃棄すること。</p> <p>容器の内容物が残ったまま廃棄しないこと。廃棄時に空容器に穴をあけるか否かなどの規制は自治体により異なるので自治体のエアゾール容器の廃棄方法を確認し、それに従って廃棄する。</p>
--

14. 輸送上の注意

国連危険物輸送勧告、	国連番号 1950 エアゾール(容積が 1L を超え、再充てんができない)
------------	---------------------------------------

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 エアゾール	最新改定日 2016年5月13日
--------------------	--------------------	---------------------

IMDG、ICAO、危規則	ものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。) クラス等級2 区分2.1 引火性高圧ガス
輸送上の注意	WD-40 カンパニーは、航空機輸送の場合の容器の差圧適合試験や他の要求試験を実施していません。WD-40 カンパニーは当社の製品を航空機輸送することを推奨しません。

15. 適用法令

労働安全衛生法	第3種有機溶剤等 (該当成分:ミネラルスピリット)
	危険物・引火性の物 (引火点30℃以上65℃未満のもの) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (該当成分ミネラルスピリット)
	名称等を表示すべき危険物及び有害物 (該当成分ミネラルスピリット)
消防法	危険物 第4類第2石油類 容器等級Ⅲ

16. その他の情報

改訂箇所	最新の改訂箇所は本文に下線をつけています。
輸出時の注意	本 SDS は製品を日本国内で上市するためのものです。海外に本製品を輸出する場合は、輸出先国での法規に従った製品の取扱・使用、危険有害性の分類および SDS・ラベルの提供が必要です。
免責事項	<p>記載内容は当社の最善の努力で作成し、作成時には正しい内容であると思われます。しかし、情報を受信する個人が特定の目的のために使用する際に、その妥当性を自らの判断で決定することが期待されます。</p> <p>提供している情報は、安全な取扱、使用、加工、保管および輸送のためだけのものであり、品質機能を保証するものでもありません。ここに提供された情報は、出荷時における情報です。使用条件は製品製造者が管理できませんので、この製品の安全な使用条件は、お客様の責任において設定していただきご使用ください。</p>